

本県の自殺対策の主な取組について

第4期愛知県自殺対策推進計画

(計画期間:2023年度～2027年度)

○計画の性格

自殺対策基本法第13条による都道府県計画

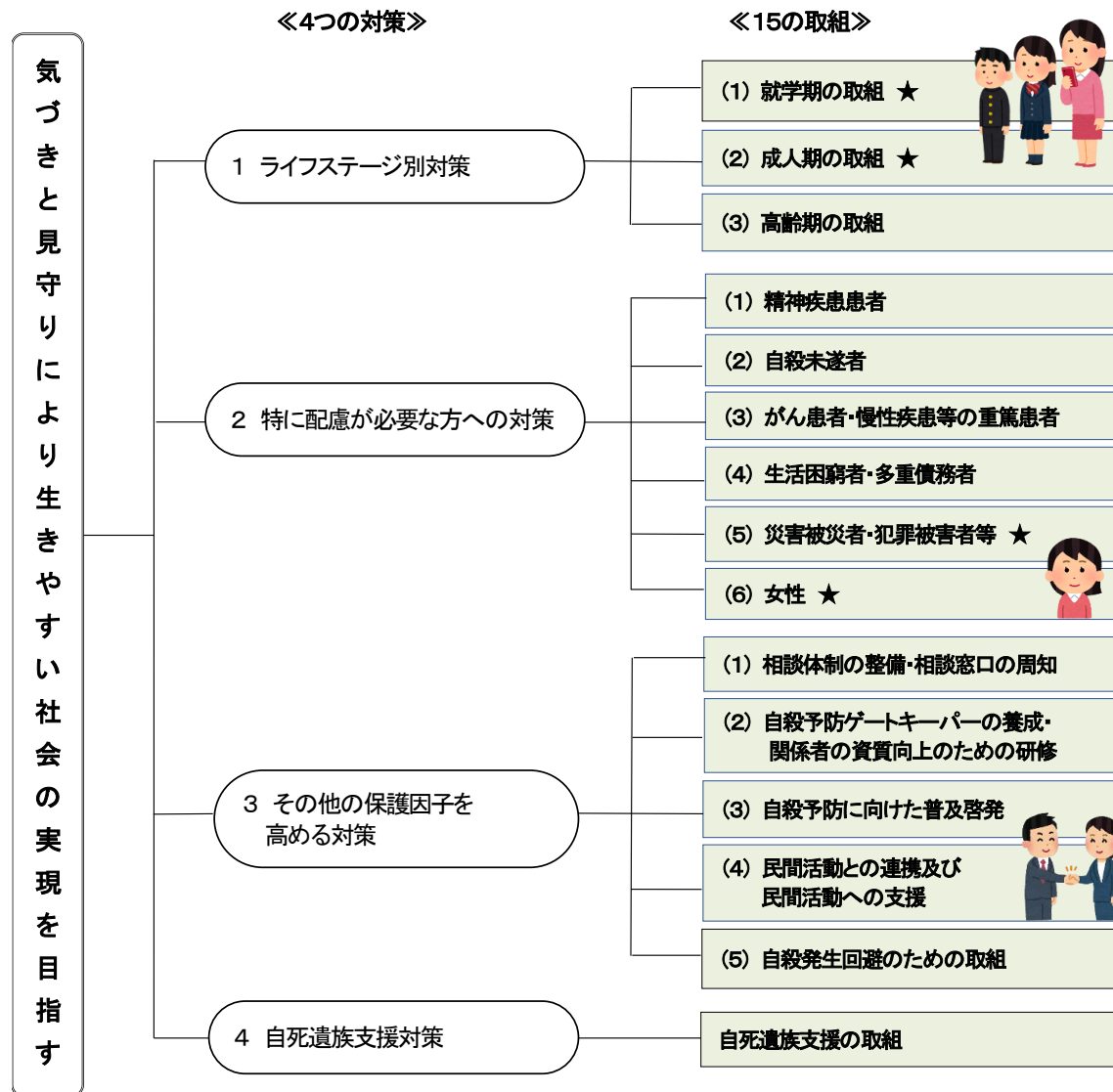
○基本理念

「気づきと見守りにより
生きやすい社会の実現」を目指す

○基本目標

2026年までに自殺死亡率
を13.0以下まで減少させる

※参考 2022年自殺死亡率 16.0



施策体系		事業名等	ページ
①ライフステージ別対策	就学期の取組	・ 若年層自殺対策啓発事業 ・ 若年層自殺対策相談対応人材育成事業研修 ・ 大学生等向け自殺予防啓発事業	4
②特に配慮が必要な方への対策	精神疾患患者 等	・ 産後うつ対応力向上研修 ・ うつ病家族教室 ・ 生活困窮者対策対応者研修 ・ 多重債務者対応者研修 ・ 依存症回復支援事業	6
③その他保護因子を高める対策	相談体制の整備・相談窓口の周知等	・ あいちこころほっとライン365事業 ・ SNS相談「あいちこころのサポート相談」事業 ・ ポスター・カードの作成・配布 ・ インターネット広告等 ・ 県民向け知事メッセージ、自殺予防啓発活動	9
④自死遺族支援対策	自死遺族支援の取組	・ 自死遺族支援対策関連事業	14

①ライフステージ別対策 — 就学期の取組 等

若年層自殺対策啓発事業

「SOSの出し方に関する教育」を推進するため、様々な相談先等が掲載された啓発リーフレットを中学・高校生及びその保護者向けに配布しています。



<配布実績>

- ・ 2023年度
配布部数 727,860部
- ・ 2024年度
配布部数 728,860部

※公立学校は教育委員会、国立・私立学校はこころの健康推進室より配布。

①ライフステージ別対策 — 就学期の取組 等

若年層自殺対策相談対応人材育成事業研修

保健所、市町村職員及び教育関係者に対し、若年者への対応の知識や支援技術を身につけ、相談対応力を高めるとともに、地域における保健、教育双方の連携を促進するための研修会を開催しています。

＜研修実績＞ ・2023年度：8月7日(月) 参加者109名
・2024年度：8月8日(木) 参加者 97名

大学生向け自殺予防啓発事業

生活環境や人間関係、アルコールの摂取の機会の発生など、大きな環境の変化に直面する大学生に対して、不適切な飲酒の防止やメンタルヘルスの重要性を周知する出前講座の開催や、教員に対し、若者のメンタルヘルス対策の研修会を開催しています。

＜出前講座実績＞ ・2023年度：3大学 受講者数125名
・2024年度：4大学 (予定)

令和6年度

若年層自殺対策相談対応人材育成事業研修

新型コロナウイルス感染症の影響があった2020年に全国の自殺者が増加しました。本県でも7年振りに増加となり高止まりの状況が続いています。特に女性や若年層の自殺者数が増加し、依然として15～39歳の若い世代の死因の1位は自殺となっていることから、若年層の自殺対策は急務になっています。本研修会では、若年層への自殺対策の一環として、自殺対策への理解、相談対応のスキルアップを目的に開催します。ぜひ、ご参加ください。

日時 令和6年8月8日(木) 午後1時30分～午後4時30分

会場 愛知県社会福祉会館 5階 第1研修室
名古屋市中区白壁一丁目50番地

- 地下鉄名城線「名古屋城」2番出口から東へ徒歩約10分
- 名鉄瀬戸線「東大手」から東へ徒歩約6分
- 基幹バス「清水口」から徒歩約2分
- 市バス「清水口」から徒歩約1分



対象 各保健所職員、各市町村保健等関係職員（名古屋市を除く）
県教育委員会職員、県教育事務所職員、
高校・中学校・特別支援学校教職員（スクールカウンセラー、
スクールソーシャルワーカーを含む）等 **先着100名**

1. 講演

講演「子どもたちのSOSに気づき・寄り添い・受け止める」

講師 九州産業大学産学共創・研究推進本部

科研費特任研究員 窪田由紀氏

■講師紹介■
臨床心理士/公認心理師。九州産業大学教授、名古屋大学教授、九州産業大学教授を経て現職。
本務の傍ら、20年以上にわたってスクールカウンセラーとして小中高の学校現場で活動。
学校危機の予防と支援の実践と研究が専門。文科省児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議座長。

2. グループワーク

申込 下記のURLまたはQRコードから、あいち電子申請・届出システムの申込フォームにアクセスし、お申込ください。

研修会の申し込みが完了しましたら、ご登録いただいたメールアドレス宛てに、申込完了のメールが送信されます。完了メールの受信をもって受講決定となります。

▼申込URL
https://www.shinsei.e-aichi.jp/pref-aichi-u/offer/offerList_detail?tempSeq=96363

【期限：令和6年5月20日(月)から令和6年6月21日(金)まで】

【問い合わせ先】 愛知県精神保健福祉センター 保健福祉課（西口）
TEL：052-962-5377 メール：seisin-c@pref.aichi.lg.jp



②特に配慮が必要な人への対策 – 精神疾患患者 等

産後うつ対応力向上研修

産科医療機関の医療従事者、市町村の母子保健担当者等を対象に産後うつの理解や支援方法、関係機関との連携について学ぶための研修を実施しています。

<研修実績>

・2023年度：

2024年2月10日(土)開催 参加者88名

・2024年度：

2025年1月18日(土)開催予定

「妊産婦のこころのケアを学ぶ」

講師 愛知医科大学病院こころのケアセンター

臨床心理士 酒井玲子氏

令和6年度 産後うつ対応力向上研修



日頃の業務の中で、精神面の不調をきたす妊産婦さんに出会うこともあるのではないのでしょうか。そんな時、どう対応したらよいのか、迷うこともあると思います。周産期の母体の死因のトップは自殺であり、自殺者の半数が重度の精神疾患であったとの報告もあります。女性の自殺者数が増加する中、妊産婦さんのこころのケアが重要となっています。産後うつの理解や支援方法、さらには関係機関との連携について学びます。ぜひ、御参加ください。

◆日時 令和7年1月18日(土)

午後2時から午後4時30分まで (受付：午後1時40分開始)

◆会場 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター)

1002 大会議室

名古屋市中村区名駅4丁目4-38

(交通案内)

JR・地下鉄・名鉄・近鉄 名古屋駅より

●JR名古屋駅桜通口から：ミッドランドスクエア方面 徒歩5分

●ユニモール地下街5番出口から：徒歩2分

●名駅地下街サンロードから：ミッドランドスクエア、マルセイ観光ビル、名古屋クロスコートタワーを経由 徒歩8分

●JR新幹線口から 徒歩9分



◆内容 講演「妊産婦のこころのケアを学ぶ」及びグループワーク

講師 愛知医科大学病院こころのケアセンター

臨床心理士 酒井 玲子 氏

◆対象 産科医療機関の医療従事者(医師、助産師、看護師)、市町村の母子保健担当者等 100名程度(先着順)

◆参加費 無料

◆申込み 期間：令和6年11月15日(金)から、令和6年12月20日(金)まで 方法：下記のURLまたは右のQRコードからあいち電子申請・届出システムの 申込フォームにアクセスし、お申込下さい。

【申込URL】https://www.shinsei.e-aichi.jp/pref-aichi-u/offer/offerList_detail?tempSeq=107703



◆参加費 無料

◆問合せ先 愛知県保健医療局健康医療部医務課こころの健康推進室

電話 052-954-6621

FAX 052-954-7493

メール kokoro@pref.aichi.lg.jp



②特に配慮が必要な人への対策 – 精神疾患患者等

うつ病家族教室

うつ病の方の家族を対象に、正しい知識や本人への対応方法を学ぶ研修会や、問題を共有し孤独感・不安の解消を図るための交流会を実施しています。

<開催実績>

- ・2023年度：11月26日（日）参加者131名
- ・2024年度：10月20日（日）参加者 50名

生活困窮者対策対応者研修

生活困窮者等の支援においてメンタルヘルスの視点を持って対応できる人材を養成するため、生活保護関係職員や相談支援員、就労支援員等を対象とした研修を実施しています。

<研修実績>

- ・2023年度：4回開催 参加者192名
- ・2024年度：4回開催予定

令和6年度 うつ病家族教室

参加費
無料

10/20（日） 14:00～15:30
オンラインによるライブ配信

講師 中村公園メンタルクリニック院長 久保田 陽介 氏（精神科医師）

内容 講演「うつ病家族教室～家族が元気であるために～」
・うつ病の正しい知識
・本人への接し方と家族のセルフケア

申込み 令和6年9月2日（月）から令和6年10月16日（水）まで（先着順）
方法：下のURLまたは二次元コードから
申込フォーム（あいち電子申請・届出システム）に
アクセスし、お申込みください。

https://www.shinsei.e-aichi.jp/pref-aichi-u/offer/offerList_detail?tempSeq=103755

※当日接続する端末単位でお申込みください。1台の端末により

複数名で受講する場合は、代表者の方のみお申込みください。

※申込完了通知メールをもって受講決定とし、定員に達し次第受付
を終了いたします。

※通信料は参加者負担となります。

問合せ 愛知県保健医療局健康医務部医務課
こころの健康推進室
電 話：052-954-6621（ダイヤルイン）
メール：kokoro@pref.aichi.lg.jp



②特に配慮が必要な人への対策 – 精神疾患患者等

多重債務者対応者研修

多重債務者の相談にあたる司法書士を対象としたゲートキーパー養成研修を実施しています。

＜研修実績＞

- ・ 2023年度：2024年1月27日（土）参加者 40名
「ゲートキーパー養成研修」 講師：青山こころセラピー（公認心理士）青山慎太郎
- ・ 2024年度：2025年2月開催予定

依存症回復支援事業

県精神保健福祉センターにおいて、アルコール依存症や薬物依存症、ギャンブル依存症者の回復支援プログラムを実施しています。

回復支援プログラム	①あいまーぶ	②ART-G
実施機関	県精神保健福祉センター	
対象者	依存症等からの回復を希望する当事者	
	アルコール依存症、薬物依存症	ギャンブル等依存症
実施日	毎週水曜日 ※年末年始、祝日を除く	毎月第2火曜日
内容	ワークブックを用いたグループワーク	
2023年度参加者数(延べ)	138名	105名

③その他の保護因子を高める対策 ― 相談体制の整備・相談窓口の周知等

あいちこころほっとライン365事業

「うつ」や人間関係の悩みなど、こころの悩みに関する**年中無休の電話相談**を実施しています。

○相談時間：

毎日（土日・祝日を含む）

9時～20時30分

※2021年7月より相談時間を

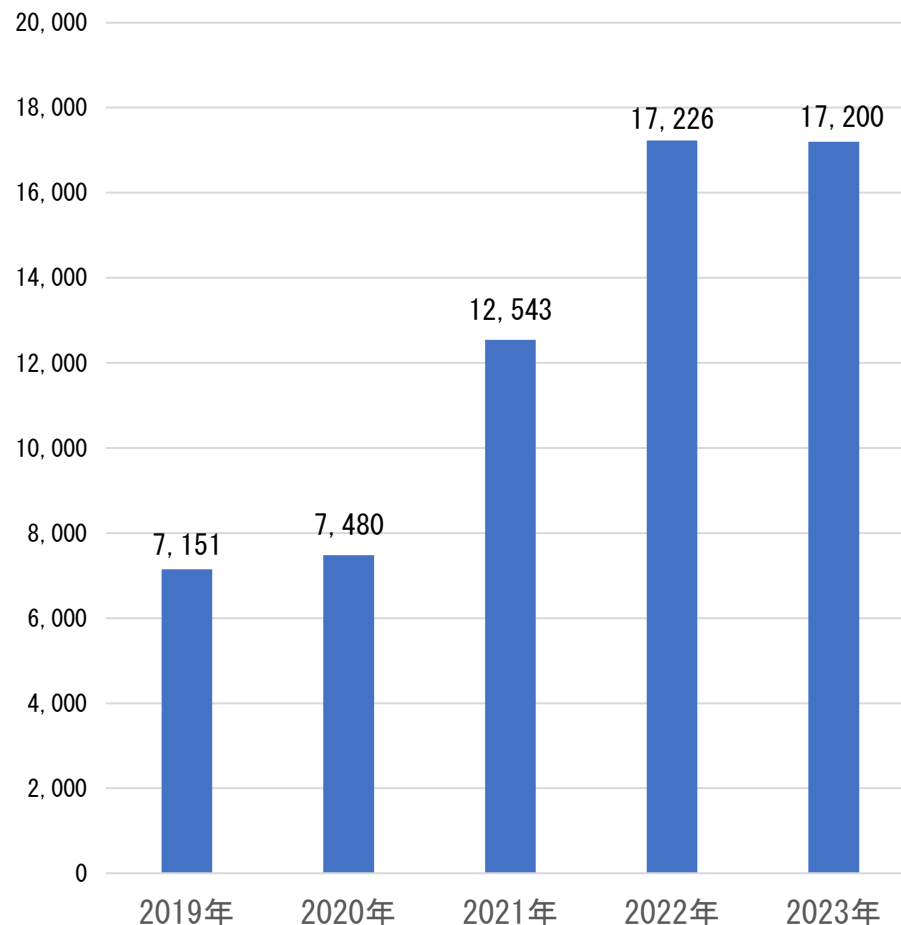
9:00～16:30から20:30までに延長

○対 象 者：

愛知県内在住、在勤、在学の方



あいちこころほっとライン365
相談件数



③その他の保護因子を高める対策－相談体制の整備・相談窓口の周知等

SNS相談「あいちこころのサポート相談」事業

SNS（LINE、Facebook）によるこころの相談を行っています。

○開始年月日：2020年11月5日

○相談時間：月～土曜日 20時～24時、日曜日 20時～翌月曜日 8時

○対象者：県内在住、在勤、在学の方

<相談件数>

	2020年度 (2020.11.5～ 2021.3.31)	2021年度	2022年度	2023年度
10歳未満	12	32	24	719
10代	342	1,163	1,020	
20代	369	1,372	1,554	1,839
30代	500	1,373	1,944	1,473
40代	402	973	1,727	1,440
50代	195	482	415	856
60代	52	145	119	83
70歳以上	18	2	8	5
答えたくない	46	139	52	0
未回答	—	—	—	345
合計	1,936	5,681	6,863	6,760

③その他の保護因子を高める対策 ― 相談体制の整備・相談窓口の周知等

周知・啓発

○ポスター・カードの作成・配布

通常の啓発（相談窓口周知用リーフレット等）に加えて、ポスター・カードを作成配布しています。

＜配布実績＞（2023・2024年度）

- ・作成部数：ポスター 800部
カード 130,000部
- ・配布先：県内私立高校・県内大学、
ハローワーク、相談支援機関等

○インターネット広告

早期に適切な支援窓口に繋げる取組を行っています。

＜掲載実績＞

2023年度：年4回（8・9・12・3月）

表示回数 約5,000回

2024年度：年4回予定



③その他の保護因子を高める対策 ― 相談体制の整備・相談窓口の周知等

周知・啓発

名古屋鉄道株式会社との連携

相談窓口の周知（名古屋鉄道主要駅におけるポスターの掲示及び車内放送の実施）



③その他の保護因子を高める対策－相談体制の整備・相談窓口の周知等

県民向け知事メッセージ

2024年8月20日 知事メッセージ発出
(教育委員会と合同)
※新学期開始前に悩みを相談するように
呼びかけています。

自殺予防啓発にかかる

県民の皆様への知事メッセージ

2024年7月の警察庁の自殺統計（暫定値）によると、本年1月から7月までの間、全国で12,009人、愛知県では732人の方が亡くなられています。自殺の背景には、失業、倒産、多重債務、過労や孤立などの社会的要因が複雑に絡み合っているといわれています。

<子どもの皆さんへ>

多くの学校では9月2日から新学期が始まります。
こころが苦しくてたまらない、どうしていいかわからないときは、一人で抱え込まず、御家族や先生、周りの友だちなど、信頼できる人に、気持ちを話してください。SNSや電話による相談窓口も複数あります。周りの人に話しづらいときは、相談窓口もあなたに寄り添ってくれます。あなたのつらい思いを受け止め、味方になってくれる信頼できる大人は必ずいるはずです。

<つらく苦しい思いをされている方へ>

一人で、苦しい思いを抱え込まず、御家族や友人、職場の仲間など、あなたが信頼できる方に気持ちを伝えてください。
身近な人に話しづらい、あるいは、話ができる人が周りにいない方は、県やお住まいの市町村の相談窓口にご相談ください。
県では、SNSや電話での相談窓口を設置しています。また、精神保健福祉センターや保健所でも相談をお受けしています。
あなたは決して一人ではありません。あなたのつらい思いを打ち明けてください。あなたからの相談をお待ちしています。

<全ての県民の皆様へ>

「眠れない」、「食欲がない」など、いつもと違う何らかのサインを発している方があなたの周りにいれば、声をかけて、「心配している」の気持ちを伝えてください。

2024年8月20日

愛知県知事 大村 秀章

自殺予防啓発活動

自殺予防週間に自殺予防啓発セレモニー等を実施
○日時：2024年9月11日
○場所：愛知県議会議事堂正面玄関前

2024年(令和6年)9月12日(木曜日)

自殺予防週間名古屋で啓発

自殺予防週間(10月16日)に合わせ、県は11日、県議会議事堂の正面玄関前で、啓発セレモニーを開いた。関係する団体の約100人が参加し、各議員が身近な人の小さな変化に気づく大切さを語り、自ら命を絶つ人を救う(せうきう)を呼びかけるの機運を高めた。(出口純)

小さな変化 逃さずひと声を

県は、2023年の県内の自殺の状況を知った。自殺者は196人で前年比4人減。新型コロナウイルスの20年の増加に歯止めはかかったが、高止まり状態だ。年齢別では40代の男性が多い。県によれば、自殺は悩みの相談しづらいケースがあるという。担当者は「だれかこそ、身近な人が大事」と呼びかける。

県内の自殺者は、13年までは毎年500以上、00年代は推移してきたが、14年に1300人台に。以降、19年にかけて減少傾向が続いていたが、20年以降は再び増加傾向になった。23年は前年より少ないが、24年7月末時点では前年同期より28人増の732人(1人増の732人)に上った。

県内の自殺者数の推移

警察庁統計を基に作成

年	自殺者数(人)
2013	1500
14	1400
15	1300
16	1200
17	1100
18	1000
19	900
20	800
21	700
22	600
23	500

コロナ禍に合わせた自殺者数の減少傾向は、全国的な傾向と一致している。県によれば、自殺は悩みの相談しづらいケースがあるという。担当者は「だれかこそ、身近な人が大事」と呼びかける。

昨年196人 高止まり 多い40・50代男性

コロナ禍に合わせた自殺者数の減少傾向は、全国的な傾向と一致している。県によれば、自殺は悩みの相談しづらいケースがあるという。担当者は「だれかこそ、身近な人が大事」と呼びかける。

○県保健所・市町村等で
啓発物品を配布
(携帯用ウェットティッシュ)



④自死遺族支援対策 ― 自死遺族支援の取組

自死遺族面接相談事業等

自死遺族の方のこころの相談を行っています。

実施機関：県精神保健福祉センター・保健所

相談日：精神保健福祉センター

毎月第3木曜日 14時～15時30分

保健所 電話予約後相談

対象者：愛知県内在住の方（名古屋市を除く）

相談件数：2023年度 98件

自死遺族の自助グループ等への支援

自死遺族への支援や一般県民への普及啓発を行うため、自助グループ等の民間団体の活動に助成を行っています。

<2023年度補助実績>

- リメンバー名古屋自死遺族の会
- ～こころの居場所～AICHI自死遺族支援室
- NPO法人グリーンプラザともに

<2024年度補助予定>

3団体

相談窓口担当者の資質向上研修

自死遺族相談に対応する職員（保健所、市町村、相談支援事業所、福祉相談センター等の職員）の資質向上を図るための研修会を開催します。

令和6年度

関係職員対象研修「自死遺族相談対応研修」

自殺によって一人の方が亡くなれると、135人に及ぶ人が何らかの影響を受けるとされており、遺族は社会の偏見や誤解などにより、大切な人の自死について周囲に話せず一人で苦しめ、社会から孤立してしまうことがあります。また、自死に限らず、大切な方との死別が周囲の人に深刻な影響を及ぼします。

地域の支援者が、大切な人を亡くした方の心理状況を理解し、必要な知識を得ておくことは、その後の回復過程を支えることにつながっていきます。

本研修会では、死別による悲嘆反応や地域で遺族を支えるために必要なことについて学びます。また、名古屋市を拠点に、自死遺族の遺族会を開催している団体の活動についても学びます。ぜひ、ご参加ください。

日時 令和6年7月23日(火) 13:00～16:00

方法 Microsoft Teamsを利用したオンラインライブ配信

対象 県内保健所及び市町村(名古屋市を除く)の精神保健福祉等関係職員、福祉相談センター職員、児童相談センター職員、女性相談センター職員等

50名(回線)

〇13:05～15:05

「地域における自死遺族支援」

講師 中京大学 心理学部心理学科 教授 川島大輔氏

■講師紹介

独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター研究員、北海道教育大学室蘭校などを経て、現職。主な著書に『生涯発達における死の意味づけと宗教』『自死で大切な人をつなげた』のナラティブ・ワークブック』はじめての死生心理学など。死生心理学、死生学、自殺予防学にご専門です。

〇15:15～15:55

「こころの居場所の活動紹介」

講師 ～こころの居場所～AICHI自死遺族支援室

代表理事 吉田ゆり氏

■講師紹介

2007年1月、自死で大切な人を亡くしたご遺族の自助グループとして～こころの居場所～AICHI自死遺族支援室を設立されました。精神保健福祉士と公認心理師の資格をお持ちです。

申込

https://www.shinsei.e-aichi.jp/pref-aichi-u/offer/offerList_detail?tempSeq=96424
URLもしくはQRコードから、ちらし裏面の留意事項をご確認の上

お申し込みください。【期限：令和6年6月21日(金)】

お問い合わせ

愛知県精神保健福祉センター 保健福祉課（聴見）
TEL：052-962-5377 MAIL：seishin-c@pref.aichi.lg.jp



<研修実績>

- ・2023年度：
7月18日(火)開催
参加者 38名
- ・2024年度：
7月23日(火)開催
参加者 53名